

本年度の重点	達成目標	重点的取組・指標	自己評価（中間）		自己評価（最終）		総合評価	評価・改善方策等	備考 アンケートとの関連
			状況	評価	状況	評価			
1 基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の伸長を目指し、学力の向上を図る。	算数科において、自分の考えを条件に合わせて書いたり、算数用語を用いて、図と言葉と式を関連付けて説明したりできる児童の割合をさらに増やす。 【岡山県学力・学習状況調査】（令和4年度4月実施）と【村独自標準学力調査】（令和4年度12月実施）の算数科記述式問題の正答率を全国・県平均以上にする。 【説明する力】	学年に応じた予習的課題を課し、授業の中で児童が自分の考えをもち、ノートに書く時間を確保し、それを説明する活動を取り入れる。 ★学校評価アンケート（児童）「授業では、自分の考えをもち、説明することができる」の項目で肯定率80%	「自分の考えを説明する」の肯定率76.3%。授業の中で自分の考えを書き、説明をする時間をしっかり確保するとともに、校内研修の場では、成果と課題を職員間でしっかり共有しながら、学校全体で取組を進めていきたい。	B	児童の肯定率は76.3%であった。授業中書いたり、説明したりする場面を多く設定しているが、教師側と児童と意識の差がみられる。	B	B	学力調査の結果から、算数科においては、5つの学年で記述式問題の正答率が全国平均以上となった。しかし、授業中においては、全ての児童が、自分の考えをもち、説明することができているとは言えない。図と言葉と式を意識し「わかった、できた」と児童が達成感を得られる授業を目指し、来年度も校内研修の時間を中心に授業改革に取り組んでいく。	県学力調査（4月） 村標準学力調査（12月） 児童ア⑧ 教員ア②
		朝学習の時間には、タブレットドリル・問題データベースの問題等から、重点課題に沿った基礎的な問題（国語・算数）を課す。また、年間7時間の「ハイチャレンジ」（4～6年）の時間に、到達度確認テスト、全国学力調査の過去問題、問題データベースの問題から文章で答える問題（国語・算数）を課す。 ★APチェックシート（教員）での「ハイチャレ・授業の中で、文章で答える問題に取り組んでいる」の項目で肯定率90%	APチェックシート（教員）では肯定率が85.7%。昨年度の村学テや本年度、春の全国・県学テにおいて明らかとなった本校の重点課題に沿った問題に取り組んだ。また、Web評価システム活用した個別に沿ったプリントも引き続き活用していく。	B	3学期のAPチェックシート（教員）での肯定率85.7%であった。肯定率は、目標に届かなかったが、ハイチャレンジの時間など、文章で答える問題に多く取り組ませたことで、ほとんどの学年で村独自の学力調査で正答率が全国平均以上となった。	B	B		
2 自他を尊重する心の教育の充実を図る。	自信をもち、目標を目指して挑戦する力を育てる。 【令和4年度学校評価アンケート（児童）】（令和4年度12月実施） 質問ア：自分には、よいところがあると思う。 「当てはまる」児童を55%に。 質問イ：自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。 「当てはまる」児童を40%に。 【課題を解決する力】	（チャレンジ）自分の成長を実感できるようにするため、キャリアパスポートを活用して学期初めに目標を児童と共有し、途中経過を確認しながら児童が振り返りをする場を設定する。 ★学校評価アンケート（児童）「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」の項目で肯定率90%★「キャリアパスポートを活用して児童と目標を共有したり、児童が振り返りをしたりする場を設定する」の肯定率80%	児童の肯定率は84.7%、教員は83.3%であった。難しいことでも諦めず、挑戦していこうとする高い意識がうかがえる。児童が振り返りを書いたり、帰りの会等で言ったりすることを今後も継続して取り組むことで、さらに自信へとつなげていきたい。	B	児童の肯定率78.7%、教員は66.7%と目標には届かなかった。行事や毎日の学校生活を振り返る機会を設けたが、児童の意識の向上につながる取組が十分できなかった。	C	B	【令和4年度学校評価アンケート（児童）】（令和4年度12月実施） 質問ア：自分には、よいところがあると思う。「当てはまる」児童50.6%。 質問イ：自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。「当てはまる」児童29.3%。 どちらも達成目標に届かなかった。特に自分の思いや感じていることを言葉で表すことを苦手としている児童が、多くいることから、令和5年度では、「自信 チャレンジ つながり」に「自己調整力」を付け加え、取り組んできたことを振り返り、何がわからないのかや何がわかったのかが自分でわかり、次にどうつなげるのかを大切にしていって取組を設定していくことで、自他を尊重する心の充実を図る。	児童ア⑮ 教員ア⑥
		（自信）体験や経験、振り返りで学んだことを生活科・総合「ふるさと元気学習」等で他学年や地域の方、他校へ発信する場を設定する。また、課題を見つけ解決に向けて粘り強く取り組む力を高めるため、学級活動、委員会活動等で児童が活躍する自治的な活動の場を設定する。 ★学校評価アンケート（児童）「学級での話し合いを生かして、自分が努力することを決めて取り組んでいる」の項目で肯定率90%★APチェックシート（教員）での「学級活動、委員会活動等で、児童が活躍する自治的な活動の場を設定している」の項目で肯定率90%	児童アンケートでの肯定率76.3%、教員アンケートでは66.7%であった。「ふるさと元気学習」で学んできたこと発信方法を児童とともに考えていく。また、学校や学級の課題を話し合う場を今後も設定し、決まったことを児童から発信することで努力の成果をより高めていく。	B	児童アンケートでの肯定率80%、教員アンケートでは100%であった。「ふるさと元気学習」を中心に、学んできたことをまとめたり、発表したりする活動が年間を通して行えた。また、学級会で自分の意見や委員会の振り返りの記録を端末で入力し、記録として残しておく取り組みを始めたことも児童の肯定率が向上した要因と考えられる。	A	B		児童ア⑭ 教員ア⑩
		（つながり）相手意識を持ち、人の役に立ちたいという思いや感謝・憧れの気持ちを育むため、遊ぼうデー、朝学、わくわく読書（ペア読書）、縦割り掃除での異学年活動の場を設定する。 ★学校評価アンケート（児童）「自分は人の役に立っている」の項目で肯定率90%★APチェックシート（教員）での「異学年交流を学期2回以上行っている」の項目で肯定率90%	「自分は他の人の役に立っている」と回答した児童の割合は76.3%。異学年交流を学期2回以上行っているの教員の肯定率は83.3%である。一人一人の良さを認め合う活動を引き続き行う。また、振り返りも大切にしていながら、取組の紹介や賞賛場面を増やすことで挑戦する意欲を高めていく。	B	児童の肯定率は73.3%、教員の肯定率は100%であった。ペア読書や縦割り掃除など、異学年での活動において、この場面が人の役に立っているという意識が児童にしっかり浸透していないと考えられる。	B	B		児童ア⑪ 教員ア⑦
		西栗倉小学校いじめ問題対策基本方針に則り、いじめの未然防止、早期発見、対処がなされている。また、学校が楽しいと感じ、友達と仲良くできる。 ★学校評価アンケート（児童）「楽しく遊べる友達がいる」の項目で肯定率80%★学校評価アンケート（保護者）「子どもは学校生活を楽しくできいききとしている」「子どもは楽しく遊べる友達がいる」「学校は一人ひとりの子どもを大切に、いじめのない仲間づくりにつとめている」の各項目で肯定率80%	児童の「楽しく遊べる友達がいる」の肯定率は97.2%。いじめ早期発見のため5月にくらしのアンケートをもとに担任が学級の児童と教育相談を行い、悩み等を聞く機会としている。定期的に各学級の児童の実態交流を行い、全職員での共通理解を今後も継続していく。	A	保護者アンケートでは、「子どもは学校生活を楽しくできいききとしている」100%「子どもは楽しく遊べる友達がいる」100%「学校は一人ひとりの子どもを大切に、いじめのない仲間づくりにつとめている」95.7%と昨年度より向上してきた。いじめ防止のため学年に応じた取組を考えることができた。	A	A		児童ア⑨ 保護ア⑤⑥⑦
3 自ら進んで運動に親しみ、生涯を通じて継続的に運動する能力と態度を育てる。	集会、委員会活動や学年の教科体育の中で、自発的に体を動かす習慣をつける。 【進んで運動する力】	天気の良い日には学年を超えて、外に出て遊んだりいろいろな運動に挑戦したりする。また、各種の運動週間に積極的に取り組み、自己の能力を高めようとするとともに、県のチャレンジランキングに1種目以上参加する。 ★学校評価アンケート（児童）「休み時間には、外でしっかり体を動かして遊んでいる」の項目で肯定率80%	鉄棒、水泳、ハードル週間とその時期にあった運動を全校で取り組めるようにした。児童の肯定率は63.8%。昨年度より15%向上したが、外遊びをする児童に偏りがあるので体育委員会からの呼びかけ等、外遊びを促す工夫をしていきたい。	B	児童の肯定率56%。外遊びをする児童は、まだ偏りがあるが、持久走、マット跳び箱、なわとびなど各種の運動週間に取り組むことで、体を動かす機会を多く設けることができた。	B	B	各種の運動週間に計画的に設定するとともに、体育委員会の児童が中心となって、アイデアを考えたり、呼びかけたりすることで外遊びの機会が増える取組を進める。	児童ア⑯
4 体験学習や「ふるさと元気学習」を通して、ふるさとと西栗倉を愛する心を育てる。	ふるさととの自然・産業・人を教材として、体験活動を交えて学ぶ。 【体験から学ぶ力】	「ふるさと元気学習」で意欲的に調べたり、考えたりすることができる。 ★学校評価アンケート（児童）「ふるさと元気学習」の時間は、考えたり、調べたり、まとめたりすることを頑張っている」の項目で肯定率80%★APチェックシート（教員）「ふるさと元気学習で他学年や地域の方、他校へ発信する場を設定している」の項目で肯定率80%	児童の肯定率は97.2%、職員は83.3%であった。西栗倉村の良さを知るよい機会として教育コーディネーターと連携した取組を行った。今後は、学んだことをICTなどを活用してしっかり発信していきたい。	A	肯定率児童87%、教員100%であった。各学年で取り組んできた「ふるさと元気学習」を通して、人前で発表したり、新聞等にまとめたりする機会を多く設定することができた。	A	A	「ふるさと元気学習」で体験したり、学んだことを生かして、ふるさと西栗倉の良さを再発見し、情報を発信する場を継続して設定する。	児童ア⑰ 教員ア⑨
	地産地消の推進などを通して、食育の充実を図り、正しい食習慣を身につける。 【食から学ぶ力】	「食」に興味・関心をもち、自分でも健康な体をつくるために意欲を持って食事ができる。 ★学校評価アンケート（児童）「給食の時間は、食べ物の話を聞いて、食べ物を大切にしたり、残さず食べようと頑張ったりする」で肯定率80%	ふるさと元気給食やものがたり給食、ほかほか給食など食に関する様々な取組を行った。児童の肯定率は97.2%と、とても高く食に対して興味・関心が非常にある。	児童の肯定率93%。生産者の方を招いて、食材に対する思いの話や給食時間において、食材の説明などを聞く取組を継続して行うことができた。	A	A		児童ア⑱	